

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300446		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	ハーモニー湖南（グループホーム）		
所在地	福島県郡山市湖南町三代字寺ノ前290		
自己評価作成日	平成26年8月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成26年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧三代小学校を改築した施設であるため、地域の方もなじみがあり、スペースも広く行事やイベントなど人が集まりやすい。湖南町のお客様や職員が多いため顔なじみの関係がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1 開設2年目の事業所であるが、法人は県内に介護事業所を多く展開しており、豊富なノウハウを活かした事業所運営及び介護サービス等に対するバックアップ体制があり、本事業所の運営に反映されている。
- 2 本事業所は旧小学校の建物を活用して開設した事業所で小規模多機能型居宅事業所を併設している。また、この建物全体の管理も委託されており、建物2階の教室や会議室を地域住民に貸出する事務も担当しており、地域とのつきあひも円滑に行われている。
- 3 両事業所の中央に「みんなの広場」と称される広いエリアがあり、テーブル、畳のスペース、囲炉裏、図書棚等が設置され、利用者の憩いの場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所内に掲示し、毎日の朝礼時に全員で唱和する機会を持ち、理念の共有をしている。又、それに基づいた行動基準も唱和し、一日の目標を掲げ取り組んでいる。	法人理念のほかに事業所独自の「方針」を作成しており、双方ともに地域との共生を掲げている。全職員が全体会議や毎日の申し送り時に確認している。さらにそれに基づいた「行動基準」も一緒に唱和し、意識を共有して日々のケアにあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、敬老会や盆踊りなど地域の行事にも参加している。また、地域の文化祭にも作品を出展したり、見学に行ったりしている。	地域の行事(クリーン作戦、花いっぱい運動、盆踊り等)には積極的に参加しており、事業所の行事にも地域住民の参加がある。ボランティア(歌謡・民謡・そば打ち・舞踊等)を多数受入れ日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議を活用し家族や地域の関係者への支援について報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	区長会長、区長、地域包括支援センターの職員と事業所での問題点等に関して解決に向けてのアドバイスをいただいたり、広報を通して施設の活動を報告し、会議メンバーからの助言をいただいている。又、ご利用者様の利用状況や行事予定なども報告している。	運営推進委員は各分野から広く選任され、併設する事業所と合同で開催している。内容は事業所の状況報告、行事報告、事故報告さらに事業所の貸出についての相談等多岐にわたっている。委員からは多くの意見や提言があり、事業所運営に反映されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政センター、介護保険課、長寿福祉課の担当者へ随時困りごとや相談にのって頂き、連携を図っている。	事業所では設立時から行政職員に事業所の実情やサービスの取り組み状況等を伝えたり相談等をしている。行政職員からは様々なアドバイスがあり協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及びすべての職員が身体拘束の勉強会を実施し知識を得ている。身体拘束廃止委員会を設置し、日々の業務の中でも身体拘束がおこなわれていないかを委員会を中心に検討している。	全職員が研修会等を通して身体拘束の弊害を理解して、拘束のないケアに取り組んでいる。「言葉による拘束」についても常に職員間で話し合いが行なわれている。玄関の施錠は夜間のみで日中はセンサーや職員の見守りで対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に積極的に参加し、職員会議や施設内研修などで教育システムを活用しながら職員の指導に努めている。高齢者虐待防止の取り組みについての委員会を構成し、月に1度ミーティングを開催している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修、外部研修で大まかな流れを把握してはいるが実際活用に至ったケースはまだない。今後も勉強会などの企画をおこないながら的確な制度活用できるように努めたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にパンフレット、重要事項説明をおこない疑問点など納得されてからの契約を実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画作成担当者を中心に、送迎時、行事の際や家族会などを通して家族の意見、要望をできる限り対応している	家族会は併設している事業所と合同で開催している。家族同士が交流する機会を通して気軽に何でも話せるような雰囲気づくりを心掛けている。また、利用者の状況報告時等あらゆる機会を通して意向把握をしており、家族の意見や要望は職員会議等で検討され運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の声に耳を傾け、できる限り職員の気づきや発見をサービス改善にいかすことができるように努めている。年に数回本部役員との面談をおこない職員が直接意見交換ができるように努めている。職員会議においても職員の意見や提案を聞き、内容により本部へ提言している。	職員の意見は月例会議等で把握している。また、法人役員との個別面談や職員の自己評価表を通して職員個々の目標や意見の把握に努めている。職員の意見等は事業所運営に反映させる体制となっている。職員からの要望(浴室のすべり止めのシートの設置等)には即時対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援をおこない、日々の業務について評価をおこない昇給などにつなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育部門があり、法人内研修などで能力向上を促した学習指導がある。内部外部研修へ積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員の積極的な研修参加を支援している。研修等を通して交流をおこなうことで事業所のサービスの質の向上にいかすことができている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの中でご本人にとっての必要なサービスや要望の聞き取りを実施しケアプランにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望の聞き取りを親身になって実施し柔軟性のある対応ができるよう検討している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族に聞き取りを行い、その時点で最も必要をしている支援を見極め、柔軟性のある対応ができるように検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、カレンダーめくり、カーテン開けなどご本人ができることはできる範囲でしていただき一人一人が役割を持って生活できるような関係を築けるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との相談、連絡などを積極的におこない、行事などにも参加し本人の支援に関しての情報の共有を図るようにしている。面会時にも施設での本人の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族ができるだけ来ていただきやすい環境を提供し本人の関係を維持できるように支援している	家族の協力を得てなじみの理美容院を利用しており、訪問美容も受け入れている。日常的に近隣の商店への買物の支援をしており、入居後の新しいなじみの関係を築いている。利用者の友人や近所の方の訪問があり、これまでの関係が長く継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人や家族からお話を伺い馴染みの場所（床屋、病院など）への外出を家族の協力をいただいたり、外出レクなどを通してつながりを続けられるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、グループホームでのサービス終了者は居ないが、今後対象者が現れた場合、ご本人やご家族との関係性を大切にしながら経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画担当者と担当職員を中心に日頃の様子から本人の思いや意向を聞き取りできるようにしている	全職員が利用者との日々の生活の中で、些細な言動や仕草からも利用者の思いや要望等の意向把握に努め、利用者が今望んでいることを日々の生活で活かせるよう努めている。現在、意向把握の困難な利用者はいない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前に本人、家族、他機関から情報を収集し生活歴や趣味、生活パターンなど今までの生活が継続できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での生活がご現在の生活と同じような流れになるように利用時に情報を確認し対応している。また、モニタリング時などに家出の様子や施設での様子を話し情報を共有するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング後、状態の変化にともなう新たな課題の発生時には家族、担当者と話し合い計画の検討をしている	利用者、家族の意向を確認し、毎日の個別記録や生活実態等から利用者の現状に即した介護計画を作成している。担当職員を中心にモニタリングを実施して定期的に計画の見直しをしている。利用者の状態に変化があった場合にはサービス担当者会議で検討し介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日常生活記録の見直しをおこない個々の情報を共有しやすいものになっている。ミーティング、会議での情報交換をもとに介護計画の見直しをおこなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様のニーズに沿って柔軟な支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し町内行事への参加をし本人の楽しみのある生活を維持できるように支援している。運営推進会議においても参加者から情報を収集している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望に沿った医師となっている。通院時は事前に家族に生活状況をお話したり、書面を使用しながら主治医との連携を図っている。	利用者のかかりつけ医の受診を支援しており、訪問受診にも対応している。利用者の状態によっては協力医療機関の訪問診療もあり、利用者の身体的、精神的な軽減を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内での状態の変化を看護師が把握し、医療機関に相談、家族への報告など迅速に適切な医療がうけられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを施設で作成し医療機関にもちより、また退院時は計画作成担当者、看護師がカンファレンスに出席し本人の情報共有や相談をおこなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメントの際に急変時の対応などをご家族に確認するようにしている。また、対応できることとできないことをその都度説明し、ご家族にご理解をいただき重度化をむかえた場合の相談支援をおこなっている	事業所では「看取りに関する指針」を作成しており、入居時に家族に十分説明し理解を得ている。重度化してきた場合には医師の意見をもとに家族の意向を尊重し柔軟に対応することとしている。協力医療機関とは緊急時対応に対しての連携体制がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や外部研修を通して緊急時対応を訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の避難訓練を実施し利用者が避難できる方法を出勤時スタッフが身につけることができた	消防署立会いの総合防災訓練を併設している事業所と合同で実施している。防災委員会を設置しており、毎月事業所独自の防災訓練（通報訓練・避難経路確認・消火器の取り扱い・職員の伝達訓練、雪害対策等）を実施している。非常用として食料品・水・布団・コンロ・懐中電灯等を備蓄している。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修でマナー研修をおこない言葉かけや対応について学習している。	接遇研修やマニュアルをもとに全職員が利用者への声かけや言葉遣いに留意し、自尊心を損ねない対応をしている。「個人情報の使用に関する同意書」を取り交わしており、プライバシーや個人情報の保護について守秘義務の遵守に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中からお本人の希望や思いを把握するように努めている。できるだけ自分で決定できるように時間の過ごし方、衣服の選択、おしゃれ、嗜好、外出レクなど対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるかぎり本人のペースですごしていただけるようにお部屋にテレビを置いてもらったり、本人の選択の幅を広げた生活ができるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し定期的にかットや整髪ができる機会をもうけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	アセスメント時に本人の好きな物や嫌いなものを聞き対応している。テーブル拭きや下膳などできることはしていただいている	食材の購入は近隣商店から配達対応で購入している。利用者は食事の準備や片付けを職員とともにやっている。近所や家族から野菜の差し入れ等も多く、季節感のある食事を提供をしている。献立は食事班が中心となり利用者の希望を聞きながら作成しており、おかゆや刻み食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメントや医療機関との連携を実施し本人に合わせた食事形態の把握、摂取量の把握をおこなっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをご本人の能力をみながら声掛け、介助をおこない、口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし本人の状態に合わせ、排泄委員会が中心になって一人一人の排泄パターンや支援方法を検討し、快適な生活の支援に努めている。夜間リハビリパンツを使用しているお客様にも日中は布パンツを使用している。	利用者個々の排泄パターンをノムダス表を活用して把握しており、排泄の自立を目標に支援している。朝に一杯の水の摂取や乳酸菌の活用等により便秘解消や整腸にも生かしている。的確な誘導によりパット等の利用軽減につながった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をおこない医療機関の指示のもと下剤でのコントロールをおこなっている。水分量を増やすために、個人の好みにあった水分の提供、起床時の一杯の水の提供を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴の仕方を尊重し、本人の楽しみの場になるように提供している。季節により菖蒲湯、ゆず湯などを使用してより気持ち良い入浴をしていただく工夫をしている。(入浴剤も使用している)	浴室は大浴槽と個浴用の2室があり、併設する小規模と共有となっている。利用者の希望に沿って入浴可能な体制となっている。入浴拒否者は少ないが、体調により入浴が不可能な時には清拭・足湯・シャワー浴等に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて横になって休んでいただいたり休息の時間をつくっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設看護師が薬の管理を実施している。薬の名前や効果については個人の処方箋でいつでも確認ができるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできる力を生活の中より把握し役割を持って生活ができるようにしている。気分転換については外出レク、行事などをおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常で買い物、散歩など体調に合わせて支援をおこなっている。年間行事計画をもとにお花見や季節の花を見にでかけたり紅葉狩りなどその方に合わせて楽しみをもった生活を支援している	散歩や徒歩での買い物等は日常的に支援している。また、地域の文化祭・敬老会・盆踊りの見学等に出かけている。事業所としてドライブによる外出支援(花見・紅葉狩り・菊人形見学等)を計画し実践しており、季節の移り変わりを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族、施設の判断もあり、金銭を自分で管理している方は少ない。急に必要なものが出た場合は施設で立替えて購入して買い物の支援をおこなっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が自宅や親戚、友人への連絡をとりたいたいと希望される場合は事務所の電話を利用し自由に連絡を取ることができるようにサポートしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様の作品や写真などを飾ったりして馴染みやすい環境づくりを心掛けている。季節感が感じられる花を生けるようにしている	建物の中央にテーブル、ソファ、畳、囲炉裏、図書棚等が設置されている「みんなの広場」があり、両事業所の利用者が一緒に談笑したり、趣味、ボランティア等を楽しんでいる。両事業所の共用空間から出られるベランダもあり、利用者はそれぞれの場所で自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースではテーブルの配置を工夫し、多人数で賑やかに過ごせる場所や少人数でうかにくつろげる場所づくりをおこないお客様の居心地に合わせた使い分けをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅での生活状況を基本に洋室、和室、ベッド、布団などご本人に確認してご利用いただいている	居室は換気扇・空調・ベット・ナースコール等が設置されており、必要に応じてポータブルトイレが準備されている。利用者は使い慣れた小筆筒・イス・テレビ等自由に持ち込み、それぞれが個性的な居室となっている。居室は清潔に保たれ、プライバシーも確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるようにトイレの目印を作ったりできるだけ主体的に動くことができるような環境づくりをこころがけている		